

おおっ!お おおか! 再発見 大岡集楽学校

目には見えない宝もの、大岡の根っこをみんなで育くむ「大岡集楽しゅうらく」づくり

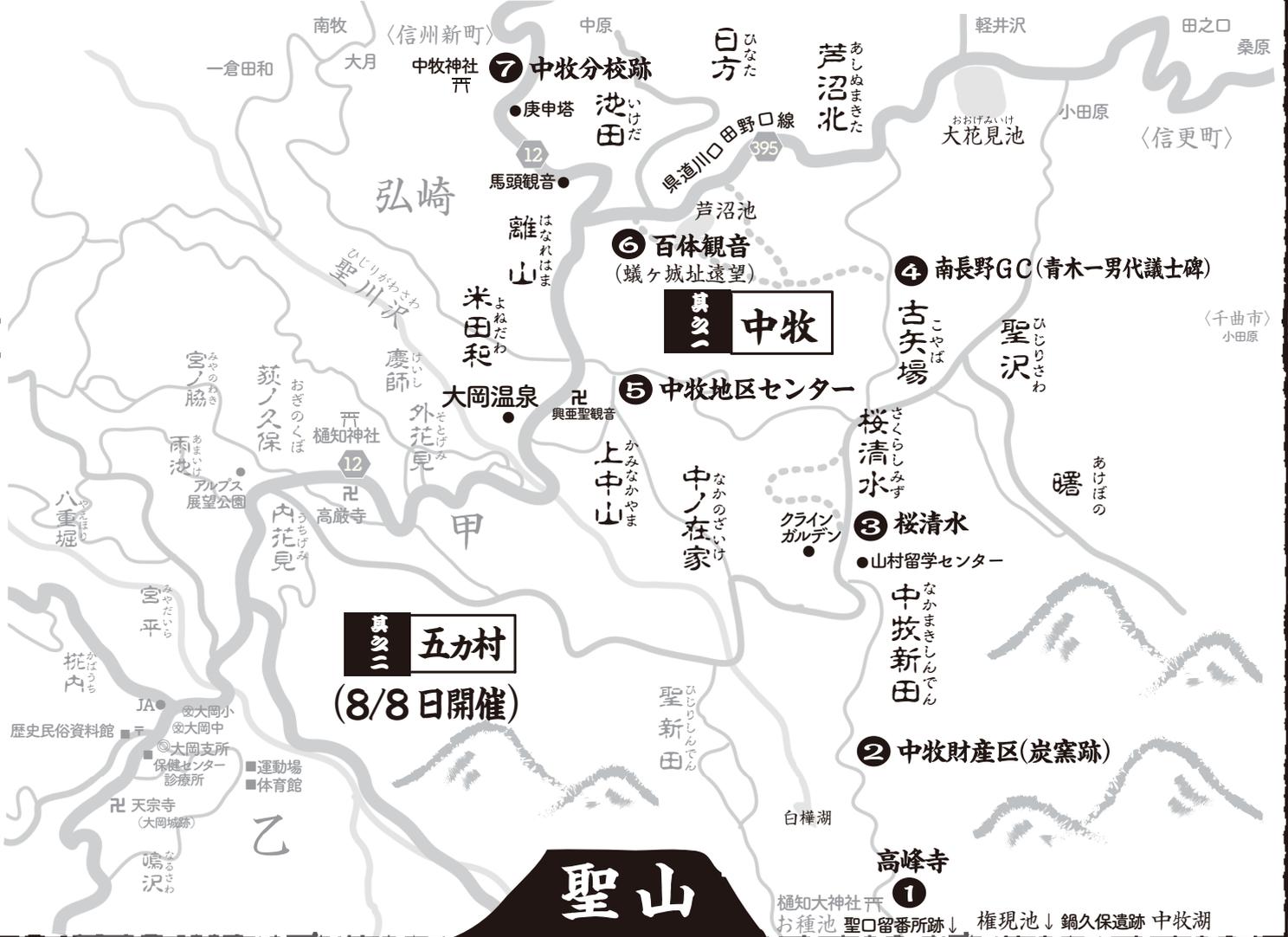
大岡全10区をフィールドとして開催する地元学講座『集楽学校』が始まります。各地区を巡り地元の方の説明や講師の宮下健司先生の解説を交えて地域を探訪し、大岡の一面を再発見しながら地域の皆さんで楽しく交流していきたいと思ひます。屋外見学後は、宮下先生による簡単な解説講義を聞き、より深く大岡を知ります。この『集楽学校』は、今年と来年で大岡の10区を北から順に巡りながら、地域を歩き、地域を学ぶ(地元学)講座です。

共催/大岡住民自治協議会・長野市大岡支所・大岡中学校

其之一
中牧
なかまき
平成27年
6/28(日)

- ① 高峰寺
- ② 中牧財産区(炭窯跡)
- ③ 桜清水
- ④ 南長野GC(青木一男代議士碑)
- ⑤ 中牧地区センター
- ⑥ 百体観音
- ⑦ 中牧分校跡

*昼食
地元有志の方の協力



其之二
五カ村
(8/8日開催)

聖山

1 聖王山・高々山寺

高峰寺（こうほうじ・こうぶじ）は二六〇年、僧・学道が高鷲山（聖山）に入り一宇の堂を建て修験の道場としたのがはじまりという。一二九二年に学道が入滅後、その弟子たちが偉徳をたたえて三社権現を創設し、高鷲山を「聖山」と称するようになったという。

【高鷲山聖権現之縁起】から

越後の国上寺修験僧学道が熊野三社権現参詣の途中善光寺に籠もり一夜を明かし、翌日は姨捨山の月をめで矢久羅（麻績村）に泊まった。ここで里人から北方に靈験あらたかな薬師如来があると聞き訪ねると童児を随えた老僧が山を案内した。この山は「孕布高山」といい、慈覚大師の弟子覚門行者が開かれた霊場で山頂のそそり立つところに総堂があり修行者が百坊を構えたが今は十二坊しかないと聞いた。薬師如来を拜してさらに奥に入り頂上に登り四方を見渡し戸隠や富士を望むと、寂寞たるこの地は山神の遊ぶ山であることを感得した。四十八の登り道、正八道を形どる谷間、四十八の霊場の相がある。熊野権現より授けられた歌を胸に山に入ることを決意した。学道は毎日寅の刻に善光寺に詣で、近くの諸霊場を往来すること三十年、八寸の鉄下駄が一寸に減るまで苦行を重ね聖者となった。

学道は聖山大威徳権現として崇敬され、古来からの桶知大神社の祭神である武水分神は、この熊野権現の影響を受けた高峰寺がその別当寺となつてさらに発展した。

【広く信仰された種蒔会】

正月三日に行われた高峰寺の「種蒔会」は、護摩を焚いて、その年の作柄を占い、その御札を泥やなぎの枝にくくりつけた「たなんべ（田御幣）」「かんじよべい（勸進幣）」を村々へ配り、各戸では水苗代の入口にその御札を立てて豊作を祈った。この行事の原型は中世にさかのぼるものと言われ、長野市指定無形民俗文化財となっている。

先の寺伝には、開山の学道上人一周忌の夜に弟子の座禅の行に学道が現れ、衆生済度のためこの社辺に那智の滝を移し湧水をつくつたと告げた。この湧水を礼拝し樋をつくつて水源の元にかけると水の音が水魂を誘つて絶え間なく流れ出るこゝとなつたと記される。後に弟子が請雨経六千巻で秘法を行い雨乞いの祈禱したとも伝わる。



権現堂で毎年6月14日に開山法要に「大般若経」600巻の転読が行われる。

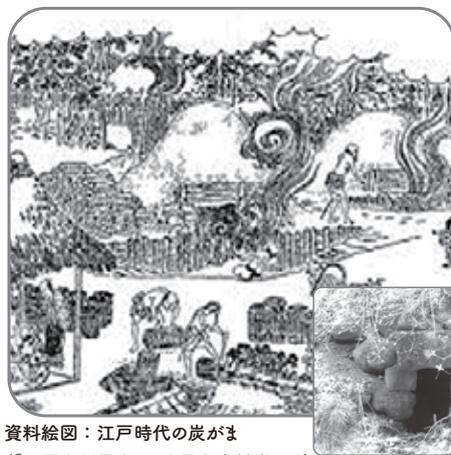
「種蒔会」が行われた権現堂は本堂右上の山中にある。



2 中牧財産区

かつては約四百ヘクタールに及ぶ森林であったが、聖北（曙・小矢場）開拓やゴルフ場開発（約三〇ヘクタール）などで今では約約三百ヘクタールとなっている。現在、信州大学の協力の下、カラマツ林一〇M×一〇Mの中に一本の割合でヒノキの苗を植え、三百年後の美林を目指して育林中である。

【炭窯跡】



資料絵図：江戸時代の炭がま（『江戸名所図会』より国分寺村炭がま）

大岡村明治一〇年の調査に産物として穀物の産出量が「多し」と記載され、また製紙・木材は「最も多し」とある。木材は犀川を利用して筏を組んで川中島方面へ輸送していたという。また薪・炭も「多くして、その価格毎年十月ごろより漸く騰し、翌年三、四月より低値す」と記されている。明治初期の大岡の産物一覧には、中牧村からコウゾ皮一〇二貫、藪一石、糊入紙二五八束、小半紙二五四束、小杉紙一六〇束の記載があり、炭は弘崎村で一五〇駄の記載がある。



御本尊はまさかり権現



高峰寺のもうひとつの縁起物語には「まさかり権現」があります。鉞を担いだ金太郎が山姥と雷神の子であるなど、山岳信仰でも霊力の象徴とされる鉞ですが、そもそも「王」の字は大きな「鉞」の刃を形象したもので、王位を示す鉞の刃には強い霊力があると考えられ漢字のつくりには王の字のある住・汪なども、王の与える豊穡につながる意味があるそうです。

聖水系のひろがり



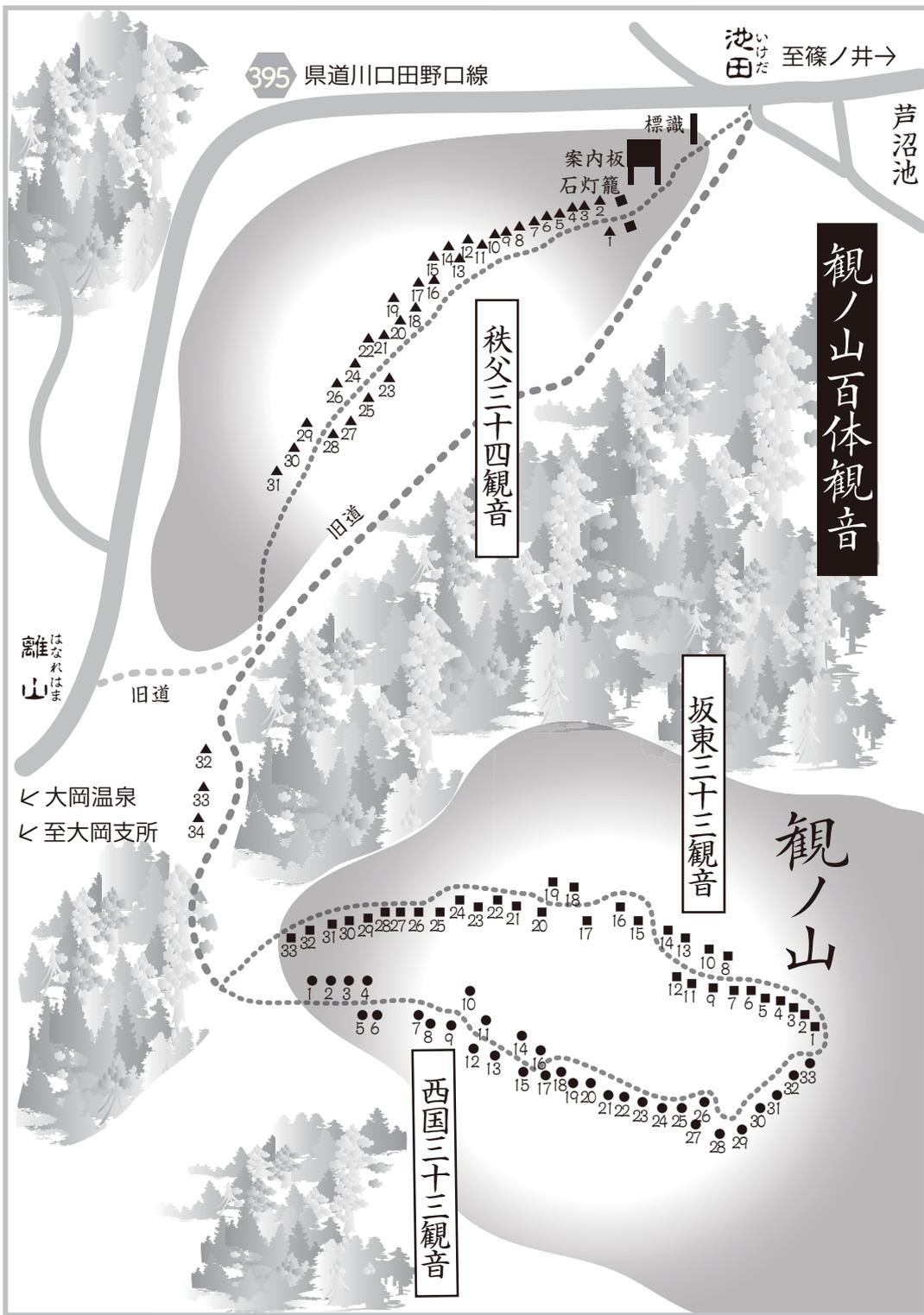
勇壮な雨乞い祭りとして知られる篠ノ井の長谷寺「三十三燈籠」は元禄年間より300年続いているといわれる聖川沿いの山崎地区に伝わる祭りで、毎年8月9日に行われています。この日は4万8千日お参りしたのと同じ功德（くどく）のある特別な日とも言われ、古くから村人は水源の聖山権現（高峰寺）で雨乞い火焚祈願をしていたともいわれます。戦乱の室町時代以降、祭は聖山を下り、ふもとの長谷寺観音前に30個の灯笼を献納する行事に変化したといわれます。

6 観ノ山百体観音

西国三十三観音・坂東三十三観音・秩父三十四観音の威徳を写した百体の石仏が建立されている。刻まれた文字に、池田、日方、藤倉、芦沼、上中山、大月、下中牧、石津、中原、新田、南牧等、藤倉、芦沼、上中山、

大月、下中牧、石津、中原、新田、南牧等の地区名があり、また当時上中山に神明山正諄院と峰畑山円覚寺の二つの寺が有り、大月の清水寺と合わせて三つのお寺が有った事も伺わせる。入口の常夜燈に天保壬寅とあることから天保十三年（一八四二年）に完成し、おそらくそれ以前の天保、文政、

文化のころから年月をかけ作られたと推測される。かつて池田の若者達で神楽を担ぎ上げ観音祭り（九月二三日）をやっていた時期もあった。平成七年の夏、枝切りして光がさされ、以後毎年の中牧池田百体観音保存会により整備がなされている。長野市指定文化財。



西国三十三番 御詠歌

百番の観音霊場にはそれぞれに「ご詠歌」がありますが、観ノ山の石仏には柔らかな字で西国三十三番にはこのご詠歌も刻まれています。巡礼は奈良時代に起源をおき、花山法皇が巡礼したという伝説があります。「御詠歌」の起源も花山院が西国三十三所の各札所で詠まれた御製の和歌を後世の巡礼者が節をつけて巡礼歌として歌ったものとされています。西国の御詠歌は葬や法要で唱えられたり、お盆の仏事に唱する地域などもあり、全国に知られていました。



現代の芸術作品と違って作者のサインを入れない石仏は誰が彫ったか名は残りませんが、観ノ山石仏の造形センスは独特でユニークです。各地に残る観音様を彫ったのは旅の石工とも言われ、信濃では高遠石工などが知られています。現在、石材店の石材は輸入した花崗岩が中心ですが地元石を使った石仏には趣があり、風化して自然に帰していく姿もまた観音菩薩が導く教えがあるような気がします。おそらく石材は聖山の良質な石材でしょう。



素直らしい 石工の表現力

一本の樹が
ぼくに慰めを与えてくれるならば
その樹はまごうかたなく
観世音菩薩なのである

あなたが清らかな水を飲んで
おいしいと思おうならば
その水が

観世音菩薩なのであり

観世音菩薩の像に接して

やすらかな気持ちになれば

その像もまた

むろん観世音菩薩である

私が入を責めることをしないならば

それが観世音菩薩であり

あなたが私を許してくださいならば

そこに観世音菩薩は

現前しておられる

観世音菩薩といつのは

世界を流れている

深い慈悲心であり

あなたの内にも

わたしの内にも流れている

ひとつの

深い

慈悲心のことなのである

西国三十三観音



- 第1番 那智山青岸渡寺 (和歌山県東牟婁郡那智勝浦町) 如意輪観音 発願 吉原八郎右門 (池田村)
- 第2番 紀三井山金剛宝寺 (和歌山県紀三井町) 十一面観音 発願 待井長三郎
- 第3番 風猛山粉河寺 (和歌山県紀の川市) 千手観音 発願 吉原庄之助 (池田村)
- 第4番 槇尾山施福寺 (大阪府和泉市槇尾山町) 千手観音 発願 待井長三郎
- 第5番 紫雲山葛井寺 (大阪府藤井寺市) 千手観音 発願 内山寿九郎
- 第6番 壺阪山南法華寺 (奈良県高市郡高取町) 千手観音 発願 内山万吉 (中之在家)
- 第7番 東光山龍蓋寺 (奈良県高市郡明日香村) 如意輪観音 発願 吉原藤衛 (池田村)
- 第8番 豊山長谷寺 (奈良県桜井市初瀬) 十一面千手観音 発願 所藤三門 (池田村)
- 第9番 興福寺 (奈良市登大路町) 不空羂索観音 発願 大代佐吾兵衛 (南牧村)
- 第10番 明星山三室戸寺 (京都府宇治市) 千手観音 発願 所藤三門 (池田村)
- 第11番 深雪山上醍醐寺 (京都市伏見区醍醐山) 准胝観音 発願 吉原兵右三門 (池田村)
- 第12番 岩間山正法寺 (滋賀県大津市石山内畑町) 千手観音 発願 待井寅次郎
- 第13番 石光山石山寺 (滋賀県大津市石山寺) 聖観音※ 発願 吉原七良右門 (池田村)
- 第14番 長等山園城寺 (滋賀県大津市園城寺町) 如意輪観音 発願 内山庄左三門 (上中山村)
- 第15番 新那智山観音寺 (京都市東山区) 十一面観音 発願 細尾源重郎 (石津村)
- 第16番 音羽山清水寺 (京都市東山区清水) 千手観音 発願 内山善九郎 (上中山村)
- 第17番 補陀洛山六波羅蜜寺 (京都府東山区五条) 十一面観音 発願 待井嘉左三門
- 第18番 紫雲山頂法寺 (京都市中京区六角東洞院) 如意輪観音 発願 吉原清左三門 (池田村)
- 第19番 靈應山行願寺 (京都市中京区寺町) 千手観音 発願 吉原久左三門 (池田村)
- 第20番 西山善峯寺 (京都市西京区大原野小塩町) 千手観音 発願 坂井七右三門 (上中山村)
- 第21番 菩提山穴大寺 (京都府亀岡市曾我部町) 聖観音 発願 青木長左三門 (新田村)
- 第22番 補陀洛山総持寺 (大阪府茨木市総持寺) 聖観音※ 発願 吉原藤四郎 (池田村)
- 第23番 応頂山勝尾寺 (大阪府美原市栗生間谷) 千手観音 発願 久保田治左門 (池田村)
- 第24番 紫雲山中山寺 (兵庫県宝塚市中山寺) 十一面観音 発願 中村吉太郎 (中原村)
- 第25番 御嶽山清水寺 (兵庫県加東市平木) 千手観音 発願 中沢九平治 (大月村)
- 第26番 法華山一乗寺 (兵庫県加西市坂本町) 千手観音※ 発願 内山総左三門 (下中牧村)
- 第27番 書寫山圓教寺 (兵庫県姫路市書寫) 如意輪観音 発願 久保源三門
- 第28番 成相山成相寺 (京都府宮津市成相寺) 聖観音 発願 吉原伝作左三門 (池田村)
- 第29番 青葉山松尾寺 (京都府舞鶴市松尾) 馬頭観音 発願 吉原長左三門 (大月村)
- 第30番 厳金山宝蔵寺 (滋賀県長浜市早崎町) 千手観音 発願 吉原幸三門
- 第31番 狭綺耶山長命寺 (滋賀県近江八幡市) 十一面千手観音 発願 内山□左三門 (上中山村)
- 第32番 織山観音正寺 (滋賀県近江八幡市) 十一面千手観音 発願 内山万吉 (中之在家)
- 第33番 谷汲山華嚴寺 (岐阜県揖斐郡揖斐川町) 十一面観音 発願 中村□左三門 (下石津村)

御詠歌ごえいか ※現代表記にしています。

補陀洛や 岸うつ波は三熊野の 那智のお山にひびり滝津瀬
夜もすがら 月を三室戸わけければ 宇治の川瀬に立つは白波
逆縁も もらさず救ふ願なれば 准胝堂は頼母しきかな
わが思ふ 心のうちは六つ角 ただ円かかと祈るなりけり
月も日も 波間に浮かぶ竹生島 舟に宝を積むこしらへ
岩をたて 水をたたえ壺阪の 庭の砂も浄土なるらん
けき見れば 露岡寺の庭の苔 さながら瑠璃の光なりけり
いくたびも 参る心は初瀬寺 山もわかひも深き谷川
春の日は 南円堂にかがやきて 三笠の山に晴るるつぐも
夜もすがら 月を三室戸わけければ 宇治の川瀬に立つは白波
逆縁も もらさず救ふ願なれば 准胝堂は頼母しきかな
水上は いくならん岩間寺 岸うつ波は松風の音
後の世を 願ふ心ははるかとも 仏の誓ひおもき石山
いで入るや 波間の月は三井寺の 鐘のひびきにあくる湖
昔より 立つともしらぬ今熊野 仏の誓ひあらたなりけり
松風や 音羽の滝の清水を むすぶ心は涼しがるらん
重くとも 五の罪はよもあらじ 六波羅堂参る身なれば
わが思ふ 心のうちは六つ角 ただ円かかと祈るなりけり
花を見て いまは望みも草堂の 庭の千草も盛りなるらん
野をもすぎ 山路に向ふ雨のそら 善峯よりも晴るる夕立
かかる世に 生れあふ身のあな憂やと 思はで頼め十声一声
おしなへて おいもわかきも総持寺の 仏の誓ひ頼まぬはなし
重くとも 罪にはのりの勝尾寺 仏を頼む身こそやすけれ
野をもすぎ 里をもゆきて中山の 寺参るは後の世のため
あはれみや 普き門の品々に なにかかまのこに清水
春は花 夏は橘秋は菊 いも妙なる 法の華山
はるばると のげれば書写の山おろし 松のひびきも御法なるらん
波の音 松のひびきも成相の 風ふきわたす天の橋立
そのかみは 幾世経ぬらん便りをば 千歳をこに松の尾の寺
月も日も 波間に浮かぶ竹生島 舟に宝を積むこしらへ
八千年や 柳に長き命寺 運ぶ歩みのかざしなるらん
あなとうと 導きたま観音寺 遠き国より運ぶ歩みを
世を照らす 仏の験しありければ まだ灯も消えぬなりけり

詩人：山尾三省『観音經の森を歩く』より

観世音菩薩



観世音菩薩 というのは
世界を流れている

深い慈愛心のことであり

わたくしの内にも流れている

ひとつの

深い慈愛心のことであるが

いつの頃からか

この世界には

そのようなものは

実在しないと

私たちは考えるようになった

それがなくては

この世界も

わたくしも

一刻も成り立ちはしないのに

わたしたちは

それを架空のものとして

考えるようになった

しかしながら

一人の人が

ぼくに喜びを与えてくれるならば

その人は

観世音菩薩なのであり

秩父三十四観音



第1番	誦経山四萬部寺 (埼玉県秩父市) 如意輪観音※	発願 大代万右門 (南牧村)
第2番	大棚山真福寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 中沢六右門 (大月村)
第3番	岩本山常泉寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 北沢定右忠四郎 (上中山村)
第4番	高谷山金昌寺 (埼玉県秩父市) 十一面観音	発願 中沢清吉 (大月村)
第5番	小川山語歌堂 (埼玉県秩父郡横瀬町) 准胝観世音菩薩	発願 待井六左門 (日方村)
第6番	向陽山下雲寺 (埼玉県秩父郡横瀬町) 聖観音	発願 神明山正諤院 (上中山村)
第7番	青苔山法長寺 (埼玉県秩父郡横瀬町) 十一面観音	発願 柴田源蔵 (上中山村)
第8番	清泰山西善寺 (埼玉県秩父郡横瀬町) 十一面観音	発願 小柳林左門 (大月村)
第9番	明星山明智寺 (埼玉県秩父郡横瀬町) 如意輪観音	発願 待井庄七 (藤倉村)
第10番	萬松山大慈寺 (埼玉県秩父郡横瀬町) 聖観音	発願 内山善蔵 (上中山村)
第11番	南石山常楽寺 (埼玉県秩父市) 十一面観音	発願 吉原徳右門 (下中牧村)
第12番	仏道山野坂寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 北沢惣三郎 (下石津村)
第13番	旗下山慈眼寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 細尾新之助 (上石津村)
第14番	長岳山今宮坊 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 小柳定右門 (大月村)
第15番	母巢山少林寺 (埼玉県秩父市) 十一面観音	発願 坂井七左門 (日方村)
第16番	無量山西光寺 (埼玉県秩父市) 千手観音	発願 待井権右門 (日方村)
第17番	実正山定林寺 (埼玉県秩父市) 十一面観音	発願 日詰治良右門 (日方村)
第18番	白道山神門寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 待井小右衛門 (日方村)
第19番	飛淵山龍石寺 (埼玉県秩父市) 千手観音	発願 待井忠左門 (藤倉村)
第20番	法王山岩之上堂 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 内山惣治郎 (下中牧村)
第21番	要光山観音寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 吉原本治郎 (下中牧村)
第22番	華台山童子堂 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 内山嘉右門 (上中山村)
第23番	松風山音楽寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 内山幸右門 (上中山村)
第24番	光智山法泉寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 吉原弥四郎 (上中山村)
第25番	岩谷山久昌寺 (埼玉県秩父市) 十一面観音※	発願 坂井清右門 内山大右門 (上中山村)
第26番	萬松山圓融寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 峰畑山円覚寺 (上中山村)
第27番	龍河山大淵寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 北澤元左門 (上中山村)
第28番	石龍山橋立堂 (埼玉県秩父市) 馬頭観音	発願 中村亀左門 (上中山村)
第29番	笹戸山長泉院 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 待井三左門 (日方村)
第30番	瑞龍山法雲寺 (埼玉県秩父市) 如意輪観音	発願 待井兵五郎 (芦沼村)
第31番	鷲窟山観音院 (埼玉県秩父郡小鹿野町) 聖観音	発願 待井長右門 (日方村)
第32番	般若山法性寺 (埼玉県秩父郡小鹿野町) 聖観音	発願 待井幸之助 (日方村)
第33番	延命山菊水寺 (埼玉県秩父市) 聖観音	発願 坂井清右門 (上中山村)
第34番	日沢山水潜寺 (埼玉県秩父郡皆野町) 千手観音	発願 待井久米右門 (日方村)

観音さまのかたち

観音菩薩にかかわる重要な経典「観音經」では、観音はさまざまな姿に変身して、さまざまな苦悩に悩む衆生を救うことが説かれており、ここから観音三十三応現身(おうげんしん)として確立され、中世には三十三観音や西国、坂東、秩父などの札所めぐりに代表される三十三ヵ所の観音霊場、霊場巡礼を生み出しました。



千手観世音菩薩
●たくさんの手でどんな時も観音の広大な慈悲力が自在に手をさしのべていることを伝えている。



聖観世音菩薩
●つぼみの蓮が開くようすを示して悟りをおしえ導く常に変化し現れる観音の本体を伝えている。



十一面観世音菩薩
●あらゆる次元を見通す面を持ち十の修行階梯を導く。広大な救済力を象徴させている。

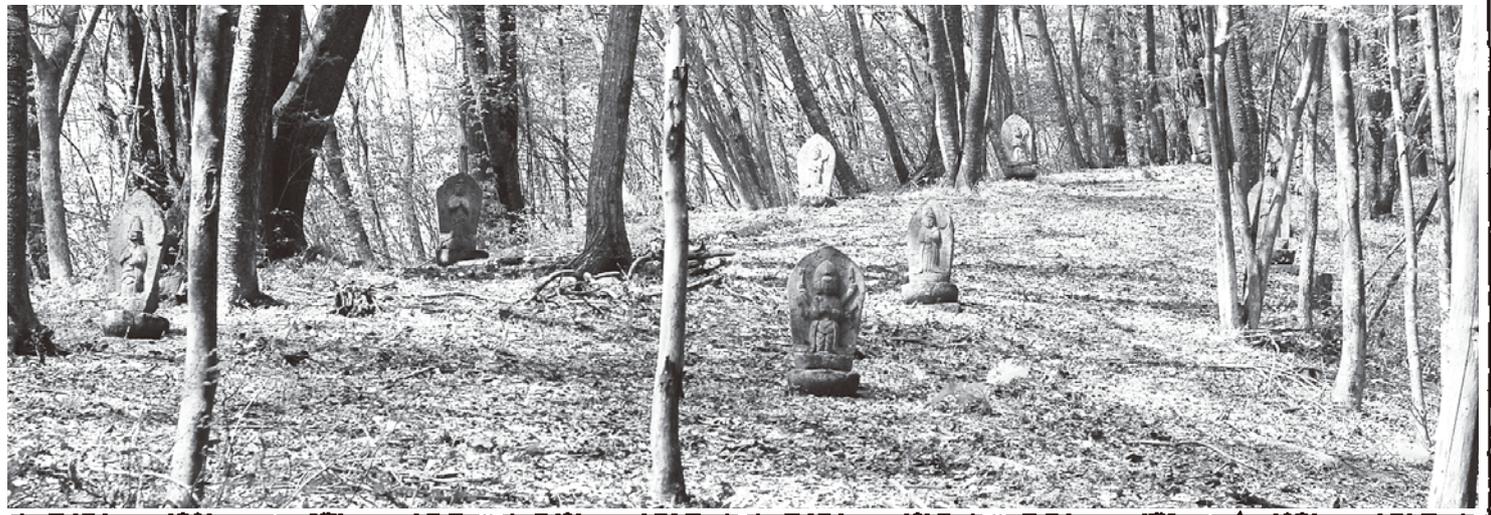


馬頭観世音菩薩
●強大な力を背後に蓄えて人々の道行きを守護することを馬神の姿に象徴し伝えている。



如意輪観世音菩薩
●仏法が自在で限らない利益を人々に与える宝であり源であることを伝えている。

※川石仏の尊像名。現在のお寺の本尊とちがうもの。



坂東三十三観音

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|---|--|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|------------------------------|--|--|--|---|-----------------------------|--|--|---|---|--|---|---|--------------------------------|---|--|--|--|
| 第33番
番外
補陀洛山那古寺 (千葉県館山市) 聖観音※
十二面観音※
発願 清水寺 (大月村)
発願 内山□□ | 第32番
音羽山清水寺 (千葉県すみみ市) 准胝観音※
発願 待井三郎治 | 第31番
大悲山笠森寺 (千葉県長生郡長南町) 聖観音※
発願 内山太右門 (上中山村) | 第30番
平野山高蔵寺 (千葉県木更津市) 十二面観音※
発願 待井新二良 (菅沼村) | 第29番
海上山千葉寺 (千葉県中央区) 聖観音※
発願 待井伝左門 (日方村) | 第28番
滑河山龍正院 (千葉県成田市) 聖観音※ | 第27番
飯沼山圓福寺 (千葉県銚子市) 聖観音※ | 第26番
南明山清瀧寺 (茨城県土浦市) 聖観音 | 第25番
筑波山大御堂 (茨城県つくば市) 聖観音※ | 第24番
雨引山楽法寺 (茨城県桜川市) 聖観音※
発願 内山万倉吉 (上中山村) | 第23番
佐白山正福寺 (茨城県笠間市) 十二面観音※ | 第22番
妙福山佐竹寺 (茨城県常陸太田市) 聖観音※ | 第21番
八溝山日輪寺 (茨城県久慈郡大子町) 十二面観音 | 第20番
獨鈷山西明寺 (栃木県芳賀郡益子町) 聖観音※ | 第19番
天開山大谷寺 (栃木県宇都宮市) 聖観音※ | 第18番
日光山中禪寺 (栃木県日光市) 千手観音 | 第17番
出流山満願寺 (栃木県栃木市) 千手観音
発願 待井利左門 (池田村) | 第16番
五徳山水澤寺 (群馬県高崎市) 聖観音※
発願 吉原幸右門 (池田村) | 第15番
白岩山長谷寺 (群馬県高崎市) 十二面観音
発願 小口文□正 (下石津村) | 第14番
瑞応山弘明寺 (神奈川県横浜市区南区) 十二面観音
発願 待井信左門 (日方村) | 第13番
金龍山浅草寺 (東京都台東区) 聖観音 | 第12番
華林山慈恩寺 (さいたま市岩槻区) 十二面観音※
発願 待井久米蔵 (日方村) | 第11番
岩殿山安楽寺 (埼玉県比企郡吉見町) 聖観音
発願 細尾林右門 (石津村) | 第10番
巖殿山正法寺 (埼玉県東松山市) 聖観音※
発願 市左門 (池田村) | 第9番
都幾山慈光寺 (埼玉県比企郡さがむら町) 如意輪観音※
発願 内山銀右門 (上中山村) | 第8番
妙法山星谷寺 (神奈川県座間市) 十二面観音※
発願 吉原□□□ (池田村) | 第7番
金目山光明寺 (神奈川県厚木市) 聖観音
発願 待井□左門 | 第6番
飯上山長谷寺 (神奈川県厚木市) 十二面観音
発願 待井仁右門 (池田村) | 第5番
飯泉山勝福寺 (神奈川県小田原市) 馬頭観音※ | 第4番
海光山長谷寺 (神奈川県鎌倉市) 十二面観音
発願 吉原伴右門 | 第3番
祇園山安養院 (神奈川県鎌倉市) 十二面観音※
発願 吉原長左門 (大月村) | 第2番
海雲山岩殿寺 (神奈川県鎌倉市) 聖観音※
発願 吉原長左門 (大月村) | 第1番
大蔵山杉本寺 (神奈川県鎌倉市) 十二面観音
発願 坂井七左門 (上中山村) |
|--|--|--|---|--|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|------------------------------|--|--|--|---|-----------------------------|--|--|---|---|--|---|---|--------------------------------|---|--|--|--|

※川石仏の尊像名。現在の
お寺の本尊とちがうもの。

資料提供：中牧池田百体観音保存会



百番観音は年号記載が無く、現在石灯笼に記載されている天保壬寅(天保13年1842)が唯一の年代資料です。牧田中村の興禅寺には天保14年(1843)長国寺に提出した総目録にがあり、中牧・上石津・下石津・中原・池田・大月・南牧小沢・下中山などの地域の小さな堂宇の記載もあります。そのなかに池田村持として「百番観音石像」があり、「文化三年(1806)開眼仕候、年々八月供養仕候」と明記された箇所があり百番観音建立の資料のひとつとして注目されます。

石観音石像の十石



観ノ山が長野市の市指定有形文化財とされるにあたって、地元の中牧池田百体観音保存会を中心に一体つつ詳しい調査を行いました。その結果、坂東三十三観音には多く現在の本尊と一致しない尊像もありました。これは観音霊場が年代を経て本尊が移転したり秘仏の多い観音の情報が現代ほど徹底していなかった事などが想像できます。

調査からの発見



よりみち大モ

3 枝清水

塩の道、早川道、および聖権現様への街道沿いにある湧水で、ここには大きな桜の木があった。春には満開の桜、こんこんと湧く清水に、旅人たちは喉を潤し、元氣を得て、またそれぞれの目的地をめざしたのでないだろうか。



まっすぐの伸びた街道正面に雪山の風景。いまでも清冽な水がこんこんと流れ出ている。

【中牧村堰・堤普請書上】から

江戸時代中期、中牧村上中山で宝永二年（七〇五）二月に中牧村の「山抜け」によって埋まった堰や堤を書き上げ、松代藩に普請要請した記録がある。これらの堰は聖沢川や芦の沢などの水を利用してつくられたものと考えられるが、その数は実に一五の多さに達し、往古からの先人の努力が伺われる。

一町二〇九〇・九m
◇大堰／長さ三三町 ◇中峰堰／一六町

4 青木一男代議士碑

新田の農家の長男として生まれ、農業に従事するつもりでいたが出奔していた父から「学資を送るので進学せよ」と手紙が届き、長野中学校（現・長野県長野高等学校）に進学。東京帝国大学法学部を卒業し、大蔵省に入省。第四〇代大蔵大臣を経て東条内閣時大東亜大臣。戦後は高速道路の構築に尽力。甲府・諏訪を経由する現在のルートにする際に主導的役割を果たした。（昼食所の中牧地区センターには氏の寄贈による書額がある。）



田園風景と集落風景が調和して美しい新田地区。

- ◇切掘堰／二〇町 ◇二反田堰／六町
- ◇中原堰／二町 ◇上石津堰／二六町
- ◇下石津堰／一六町 ◇丑ノ平堰／一五町
- ◇五反田堰／一四町 ◇塚田堰／一三町
- ◇河原田堰／九町 ◇峰田堰／一〇町
- ◇石原堰／九町 ◇とち窪堰／一六町
- ◇大花見堤／四五町 ◇大花見下堤／二〇町
- ◇足浪堤／五〇間 ◇足浪下堤／一五間

5 中牧地区センター

池田観ノ山百番観音の調査がなされ、当時上中山に神明山正諄院と峰畑山円覚寺の二つの寺があったことがわかってきた。中牧地区センターの駐車場脇の小山に、梵字の「ア字（大日如来）」と「圓學寺」の文字を刻んだ文政十二年（一八二八年）の供養碑、地藏尊石仏、卵塔（無縫塔）・禅僧の墓石に多く用いられる）等が残されており、おそらくこの地に寺院があったことを伺わせる。

【子育て観音】

昔は子宝に恵まれるようにと願掛けを行う風習があった。この子育て観音にも近在より多くの善男善女が参拝に訪れ、また子どもを授かると安産を祈願し、さらに無事に成長すると御礼参りに来るなど、かつてはたいへんな信仰の深いお堂で参拝者で大いに賑わったが今はお堂も朽ちてしまい、当時の面影を想像することも難しい。



中牧地区センターから望む観音堂の風景。



未知の財宝はどこに?



高峰寺縁起物語には聖山で厳しい修行のち靈験を授かった開山の学道上人が、弟子たちの遺言に「予は七つの宝珠を持っている。その中の蘇伐羅（金）と阿路巴（銀）二宝を高鷲峰に埋め、国郡の豊饒のために備えてほしい」といい残したと伝わります。仏教において釈迦が説法をした山を靈鷲山、七宝は極楽浄土の莊嚴さを指すと言われますので、この宝は物質的な宝というよりは清らかな水や心の宝を言い託したのかもしれない。



埋もれていゝる？ 歴史



海津城（現松代城）は、川の流れを巧みに生かした築城技術を熟知する香坂氏ら川中島四郡の国衆が築いたと言われています。香坂氏は、室町時代末まで中牧などこの辺り一帯を支配していたと言われています。築城後、家臣を含め多くの住民が松代に移ったため地元に残る文献は少ないものの、その足跡をたどると、渡来僧から伝授を受けた鎌倉圓學寺開山僧の弟子、見山崇喜を開山として寺院を創建するなど仏教への造詣の深さが見えてきます。当時山中にあっても最先端の知識と接していた様子は、情報時代の今から想像が付きませんが、寺院創設前史の頃、大岡の牧と当時の政治の中心であった鎌倉とのつながりがあったのでしょうか。大岡にはまだまだ埋もれている歴史がありそうです。

7 中牧八刀六杖跡

牧郷村尋常高等小学校の中牧分校として発足、昭和三十一年九月、大岡村が牧郷村中牧と合併し大岡小学校中牧分校となり、当時大岡小学校は本校1、分校5となった。昭和三十三年の中牧分校の生徒数は145人とある。三十四年に村全体の人口も4035人となり、小・中学生の数もピークで200人以上を数えた。しかし、同三十六年北小松尾分校を皮切りに学校の統廃合が進み五十一年大岡村内最後の分校であった大岡分校も本校に統合、明治以来の分校の歴史にピリオドが打たれた。同時に大岡小中学校の新校舎の建築が始まり、五十二年に中学校、翌五十三年に小学校がそれぞれ竣工した。平成に入り中牧分校跡地には第三セクターの施設がつくられたが閉鎖、グラウンドは民間に払い下げられ校舎跡地は中牧地区に返還された。昨年地区住民の手によって「中牧分校跡地公園」として整備され平成に十八年の中牧神社御柱祭に会場として使われる予定である。

【中牧神社・大月城址】

中牧神社は、牧郷村中牧地区内八耕地にあった村々の神社を大正八年大月城址に合祀したもの。戦国時代には大月城に10人前後の兵が常駐していたとの言い伝えがある。石段は一〇八段で大日方普沼（現在の普沼北団地脇）にあった八王子神社石段を移設したものである。下中牧・宮にあった中牧神社諏訪大明神（小口家神主）は、江戸中期に造られ、地域

では最も古く、つぎに弘崎・南牧の諏訪大明神であるとされている。かつては、春大祭が四月二三日、秋は九月三日と決まっていたが、現在はその後の日曜日に行われる。七年に一度の御柱祭は八耕地で順番に山出しされ、旧中牧分校より氏子の手によって曳行され建立奉納される。平成二十八年春は、石津・宮・下中牧地区より奉納される予定。



中牧神社御柱祭

◎そのほかの紹介

【セイゾウボウ】

正造坊（日方地区）はワラの人形に厄払い、地区内安泰を祈願し、それを村境（村の入口）に置いた。毎年、春の彼岸の中日に、子どもたちの行事として行われてきた伝統風習。昔は組長宅持ち回りで振る舞いをし、この日は組費をもつて酒三合を子どもたちにも与えてよいとされていた。上中山などにも同様の風習があるが、日方のそれとは呼び名もカタチも異にするところが興味深い。（〓御腹の神 御送り申す）

【鍋久保遺跡】

昭和四十年代より全国的に別荘の開発ブームが起こり、こゝ聖山周辺にも開発の手が入った。聖山地区（中牧湖周辺）での工事の際、遺跡が発見され調査が始まった。その結果、BC六五〇〇〜五五〇〇年頃の遺跡であることがわかった。BC三〇〇〇年頃の住居跡や落し穴等も報告されている。



大岡の各地区でも同様の風習がある。置かれる地は村境の道辻で、かつてこゝも主要道交差点であった。



現在の中牧湖周辺風景

松代街道大峰寺参道入口の馬頭観音



大峰寺は初代松代藩主真田信之の隠居所

池田の馬頭観音



岩殿寺は天台密教の要所戸隠とも関わり深い

筑北岩殿寺の馬頭観音



馬頭観音くぐらべ

中牧の池田集落を見渡す入口にある馬頭観音を近隣の馬頭観音石像と並べてみました。どの石仏も大きな珍しいものです。



よりみちなモ